



1964年東京パラリンピック選手宣誓
(写真提供: 社会福祉法人太陽の家)

戦傷病者の労苦を伝える — 大分展 — 車いすと義肢が 支えた希望の一步

戦争で怪我や病気になった方々の労苦を

2つの視点からお伝えします

パラリンピックと戦傷病者
～中村裕と青野繁夫～

展示
1

令和6年(2024) 6.19 水 ▶ 30 日

入場無料

時間 ▶ 午前10時～午後6時

会場 ▶ 大分県立美術館(OPAM)1階展示室A
(大分県大分市寿町2-1)

主催: しょうけい館(戦傷病者史料館)(厚生労働省委託)
協力: 社会福祉法人太陽の家
後援: 大分県、大分県教育委員会、大分市、大分市教育委員会、
大分合同新聞社、西日本新聞社、朝日新聞大分総局、
読売新聞西部本社、毎日新聞大分支局、NHK大分放送局、
OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、
大分ケーブルネットワーク株式会社、エフエム大分、
J:COM大分ケーブルテレコム



展示
2

戦傷病者を支えた
義肢



戦傷病者が使用していた義足

同時開催 昭和館「くらしにみる昭和の時代 大分展」/ 平和祈念展示資料館「平和祈念展in大分」

戦傷病者の労苦を伝える ―大分展―

車いすと義肢が支えた希望の一步

「戦傷病者の労苦を伝える ―大分展―」では、2つの視点から戦傷病者の労苦をお伝えするとともに、東京九段下にあるしょうけい館の展示内容について実物資料を用いて紹介します。

1つ目の視点は、「パラリンピックと戦傷病者」。日本で初めてパラリンピックが開催された1964年東京大会では、戦傷病者が競技に出場し、メダルを獲得する快挙を成し遂げました。パラリンピックの日本での開催を主導した大分県出身の医師中村裕博士は、その後の日本社会における障がい者スポーツの発展に尽力しました。1964年東京パラリンピックを中心に、戦傷病者として、選手として大会に参加した青野繁夫さんと、中村裕博士の人生を紹介します。

2つ目の視点は、「戦傷病者を支えた義肢」。腕や足を負傷した戦傷病者にとって義肢はなくてはならないものでした。生活面・仕事面で支えた義肢(義手・義足)に焦点を当て、戦傷病者一人ひとりのパーソナルヒストリーをみつめます。



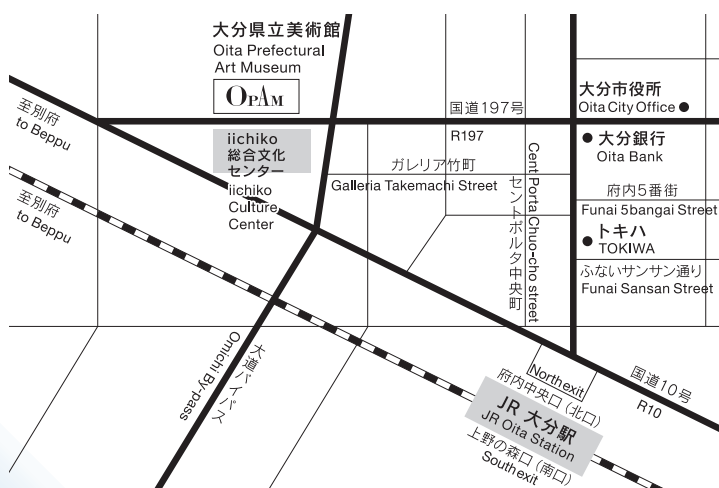
メダルを獲得した戦傷病者
青野繁夫さん



パラリンピック開催に尽力した中村裕博士
(写真提供: 社会福祉法人太陽の家)



戦傷病者が使用していた義手・義足



- 会場 大分県立美術館(OPAM) 1階展示室A
大分県大分市寿町2-1
- アクセス JR大分駅府内中央口(北口)から徒歩15分
大分ICから車で10分

しょうけい館は、戦傷病者とそのご家族等が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、次世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年に東京九段下に開館し、令和5年に移転しました。

